

ライフワークバランス休暇



総務部 総務課
課長

阪本 誠 さん

企業プロフィール

- 事業内容：電気設備資材、給排水設備、およびガス設備機材の製造
- 従業員数：803名(2014年3月20日現在)
- 年次有給休暇の取得率：34.9%
- 年間休日数：142日(平成26年度公休日)
- URL：<http://www.mirai.co.jp>

生活を充実させるために公休を増やし、限られた時間で仕事をする

実践！

こうすればできる！
こうすればのびる！

- ① 自宅でできることは自習に
- ② 飛び石連休を長期休暇に利用
- ③ 社員の自立、自己管理を促す

社員のやる気を尊重し、日々のリフレッシュを促進

当社は、土・日・祝日を公休としている他に、年末年始は17～20日程度の連続した公休を設けています。年間の公休日数は140日程度あります。本社が現在地へ移転した昭和60年頃は今より公休が少なく、土曜日、第一土曜日以外すべて出勤日でした。大企業が土・日休んでいるなかで土曜日を出勤日とすることは、人財を採用する上で不利な条件と受け取られることもあり、良い人財を集めるためにも、どうしたらよいかと考えていました。変化があったのは、昭和60年からです。その頃、第二、第四土曜日に各部署で勉強会を行っていましたが、勉強なら自宅でもできるだろうという話になりました。それではまず第二土曜日、そして第四土曜日にも休みにして、「自習」してもらおうということになりました。

会社に長時間いても楽しくないでしょうし、いいアイデアが浮かぶには日々のリフレッシュも必要です。「常に考える」という当社のモットーから、「自習」を取り入れながら公休を増やしていきました。



“生活を充実させる”が優先 「ライフワークバランス休暇」

“生活を充実させるためには労働を”（労働のために生活があるのではない）ということから、当社の公休は「ライフワークバランス休暇」と考えています。それゆえに7時間15分という就業時間の中でできるだけ効率的に仕事をしてほしいと考えています。年次有給休暇は、公休とは別に年20日間あります。公休ですから、もちろん会社全体が休みで、その日は何をしてもかまわないし、賃金もそのままです。社員も気兼ねなく休めるでしょう。

公休の特徴のひとつは、飛び石連休をなくしたことです。飛び石連休ということ、出勤日と休みが交互にあり、休日に対する満足感が減退します。それなら、間の出勤

日を公休にしてしまえば連休になり、満足感が高まります。

■ 営業カレンダー

2014年12月							2015年1月						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6					1	2	3
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31

○ … 公休

自立した社員を長期で育成

社員が当社のカレンダー通りに休むためには、業務時間内に仕事を終わらせなければなりません。そのためには、自ら計画を立て、高い知識や技術力を身につけることが必要になります。また、お客様や周りの社員を説得する力も必要です。“今の自分に何が必要か”という自立した考え方があれば、仕事のアイデアを考える場所は会社であっても自宅であっても関係ありません。

社員は、当社にとって何よりの宝です。社員が育てばパワーになり、パワーがリターンに、すなわち利益になります。ですから、長い目で見ることにはなりますが、公休を増やすという考え方が、会社の利益につながっているのです。

制度活用事例

スケジュール管理を工夫して休暇を取ります

入社からちょうど10年経ちましたが、入社当時から公休のことは知っていました。私は、学生時代から続けてきたテコンドーを就職した後も続ける予定でしたから、両立できる職場を探していました。入社後は、他の社員と同じように公休を利用しています。特に、年末年始は毎年20連休ほどになりますから、練習も十分にできますし、年末に差し掛かって混雑する前に旅行に行くこともできます。テコンドーの世界選手権やワールドカップで年に1度は海外に行きますので、公休を利用した長期の休みが取りやすいことは、本当に助かっています。

私は今、開発部に所属し、主に電線を留めるケーブル支持具などを作っていますが、金型の発注をしている期間を公休に当てるなど、自分なりにスケジュール管理を工夫しています。自分の時間を自分で管理することは、もちろん責任を負いますが、やりがいもあります。

同じ部署の先輩は世帯を持つ方が多いので、運動会などの子どもの行事に欠かさず出席するなど、家族のために公休を利用している印象があります。公休の前は、終業後に社員同士で飲みに行く機会が多く、そのおかげで社内のコミュニケーションも取りやすいと感じています。上下関係に垣根がなくなり、お互いに気を使うようなストレスがありません。

アイデアが生まれやすい環境があります

開発というのは、頑張れば結果が出るというものではありません。図版を描くときは“アイデア待ち”です。特に当社は、他社と同じ製品は作らないという方針ですから、良いアイデアが浮かばないときは長時間悩むこともあります。ですから、仕事だけでなく、例えば自宅でお風呂に入っているときに開発のアイデアを思いつくこともあります。考え続けることは大変ですが、時間をかけた自分のアイデアが通ったときは大きな喜びを感じます。公休のおかげもあって、普段は「仕事に追われている」「休みがなくて疲れ果てている」といったことはありませんし、ゆとりのある、アイデアが生まれやすい環境が常にあると感じています。

頑張らないと面白くないのが仕事ですので、努力もしますが、残業はしません。時間内に業務を終わらせるようにしています。しかし休みが多いからといって手を抜くような発想はありません。仕事もプライベートも両立させようとする大変なこともあります。充実した、内容の濃い毎日を送っています。



開発部 電設二課

岸 玄二 さん